

平成29年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

法人が集落の再生をまるごと引き受けます

受賞団体：「有限会社アグリードなるせ」（宮城県東松島市）

◆むらづくりの背景・経緯

東松島市は、宮城県の県都仙台市の北東にあり、東は石巻市、南は太平洋に面している。同市では、県営ほ場整備事業を契機に集落ごとに「地区アグリセンター」が設置され、土地利用調整と積極的な農地集積を進める中、将来の地域農業をどのようにするのか何度となく話し合った結果、受け皿組織の必要性を痛感し、平成18年2月に中下集落の農家14名全員が株主として参加する「有限会社アグリードなるせ」を設立した。

平成19年には「有限会社アグリードなるせ」が、中下・新町地区アグリセンター（農用地利用改善組合）から特定農業法人に位置付けられ、むらづくり推進の核となった。

◆むらづくりの内容

○農業生産面

「有限会社アグリードなるせ」は、集落農業の担い手となり地元雇用を増やすために大豆、大麦、小麦、じゃがいも、キャベツ、白菜等の複合栽培により周年就労体系を確立するとともに、農業法人の仲間や大手企業等と連携した情報交換や試験研究機関からの指導を受け、新しい作物・技術・部門を開発してきた。

また、6次産業化の取り組みとしては、大麦は地ビール製造に向けて試験栽培を行っている。水稻は米粉、大豆は納豆ときなこ、小麦はバウムクーヘンに加工・販売している。



のびるバウム

○生活・環境整備面

東日本大震災後、のびる多面的機能自治会を発足し、事務局を担っており、自治会活動、農村環境美化活動、農村歴史文化伝承活動、地域コミュニティーづくり、生涯学習・健康づくり・防犯・防災活動などの集落活動を一手に引き受ける組織となっている。

また、震災で地元を離れてしまった人たちに年に1度の里帰りを呼びかけて開催する「福幸祭」や地域の小学生の農業体験として田植えや馬耕見学など、様々な活動を開催している。



上：「福幸祭」



下：小学生の馬耕見学